

日本の実像

日本語で読もう

主编 中川経治 李若柏



东北师范大学出版社

长 春

日本の実像



日本語で読もう

主编 中川経治 李若柏

东北师范大学出版社 长春

□主 编:中川经治 李若柏

□副主编:董将星 张群舟

□编 委:高 富 张为国 董春琪 高在学 孙长虹
马 军 杜玉良 杨 舒 程子香 刘桂萍

图书在版编目(CIP)数据

日本の実像/中川经治, 李若柏主编. —长春: 东北师范大学出版社, 2002.7
ISBN 7-5602-3148-9

I. 日... II. ①中川... ②李... III. 日本—概况—日文 IV.K931.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2002)第 54497 号

□出 版 人: 贾国祥

□责任编辑: 吴东范 □责任校对: 伊 然

□封面设计: 宋 超 □责任印制: 张允豪

东北师范大学出版社出版发行

长春市人民大街 138 号 邮政编码: 130024

电话: 0431—5695744 5688470 传真: 0431—5695734

电子函件: SDCBS@MAIL.JL.CN

广告许可证: 吉工商广字 2200004001001 号

东北师范大学出版社激光照排中心制版

吉林省吉新月历制版印刷有限公司印刷

2002 年 7 月第 1 版 2002 年 7 月第 1 次印刷

开本: 787 mm × 1092 mm 1/16 印张: 5.5 字数: 74 千

印数: 0 001 — 1 500 册

ISBN 7-5602-3148-9/K·142 定价: 10.00 元

序

外语教学的历史诚然已很久远,但是,传统的外语教学,即单纯地用语言教授语言,越来越受到挑战。任何一个民族的语言都源于该民族的社会生产实践。换言之,语言在特定的文化背景中产生,因而,必然带有浓厚的文化色彩。因之我们知道,脱离社会生活或文化背景教授语言,很难获得成功。比如,各民族的语言表现形式在各民族的社会生活中已约定俗成,离开特定语境去讲解或理解语言现象,极易出现错位或偏差,即使勉强地死记硬背下来,应用时也欠自然。在大量赴日留学生中的调查还表明,有些人日语能力不错,可是在日本的留学、生活、工作中时常碰壁,乃至精神压抑,中途折返,无法实现初衷。究其原因,仍然是不了解日本社会、日本人,缺乏日本文化知识,造成文化磨擦,形成不可逾越的障碍。假若在掌握日语的同时,也能掌握日本文化中应该掌握的部分,就不会出现这种悲剧。所以有人说,语言是文化的一部分,不了解语言所承载的文化,就不能真正地掌握语言。

一个国家的实际情况,即谓国情,具有实在性、历史继承性、不可选择性、全面制约性等特点。留学人员来到异国他乡,面对这一必须面对的现实,如果一无所知或知之甚少,即使在一定程度上掌握了语言,无疑也会遇到诸多困难。

根据大量调查和多年外语教学实践,我们认为,外语教学与留学成功有必然联系,在外语教学中适时地加以文化意识的提示和国情知识的渗透,是使学员取得留学成功的有力一步。

中川经治先生是日本知名的国际友好人士,他不仅有丰富的国际友好交往经历,还对留日学生状况研究颇深。面对有些留日学生因不了解日本而一筹莫展的现状,中川先生甚为忧虑。为了给学生提供一个有价值的帮手,我们向中川先生提出合作编一本这方面的小册子,这一想法恰如先生所愿。在中川先生的大力支持和双方的共同努力下,这本对日语学习者而言起码应该掌握的反映日本实情的小册子终于面世。目前,有关介绍日本概况的书籍本来不多,仅有的又都过于专业化,这方面的日文书籍语言运用繁难,日语初学者难于读懂。所以,本书编写者在考虑内容科学、准确的同时,力求突出两个特点,即用最短的时间掌握赴日留学必备的最实用、最基础的有关日本国情

和文化方面的知识。用浅显易懂的日文编写,使初学日语者能不困难地在了解日本的同时,又能得到语言的训练,收到事半功倍、一举两得的效果。

相信使用本书会对学员理解复杂的、时常容易引起误解的日本文化等知识有所帮助。

本书在编写过程中,得到很多先生的指导,谨致衷心谢忱。

书中若有欠妥之处,请不吝指教。

东北师范大学教授
中国赴日本国留学生预备学校
校长 李若柏

目 录

MULU

前書き	1
第一章 国土と自然	2
第二章 政治制度	7
第三章 日本の歴史と天皇	12
第四章 交 通	23
第五章 産業と経済	28
第六章 社会保障	35
第七章 教 育	39
第八章 祝日・年中行事	48
(付記 日本人の余暇)	
第九章 生活習慣	54
第十章 文化・スポーツ	61
第十一章 日本人とのコミュニケーション	74
付き合い方試論	

まえ 書 き

日本語は勉強したが日本のことについての知識はまだ十分でない、と思っている人々のために書かれたのがこの本です。日本を知るためにはいろいろな方面から日本を見ることが大切ですが、基本的な理解に役立つ事項だけを今回は11章にまとめてみました。簡単な日本案内書ではなく、基礎的な知識を通じて日本の実像に触れることを目的として書き上げられたものです。文章も文書体「である調」を使用しましたので、辞書も引きやすい筈です。漢字にはルビ（振り仮名）をつけて学習時間の節減を計りました。

外国人日本語学習者のためにまとめられた日本事情書冊はまだまだ少なく、また日本語学習段階で日本事情のために配分される時間数も極めて少ないのが現状です。その結果、日本語は主にビジネス用や日常会話用に終わってしまい、一部の専門家の場合を除き、日本研究の手段として使われることは殆どありません。日本語で書かれた諸資料もあまり読まれないのでは、折角学んだ日本語も死んでしまいます。日本語を使っておもしろい研究が出来る筈なのに、もったいないことです。

中国人学習者には漢字が共通という強みがあります。日本語の背景にある文化の理解もそれほど難しいわけではありません。この書冊を大いに利用して、どうか日本文化の深みに入ってみて下さい。読んだ中から興味のある部分を選んで、少し集中的に研究してもいいと思います。このような研究は自己啓発にもなり、また国際交流の進展にも役立つに違いありません。

授業で使用の際、より具体的な説明や最新の情報など補足資料が加われば一層興味も増すと思われます。原稿作成の段階では東北師範大学赴日留学生予備学校の李若柏、高富、張為国、董春琪、杜玉良、楊舒、馬軍、孫長紅、高在学、程子香、劉桂平、董将星の諸先生が協力されました。感謝いたします。また出版にあたってご協力頂いた諸先生及び事務局の方々にも御礼申し上げます。

学校だけに限らず広い範囲での使用を願い、また、使用後の感想、提案等を期待しております。皆様方の日本語の上達を祈っています。

中川経治

(編著担当者)

第一章 国土と自然

1 日本の位置と面積

日本はアジア大陸の東にあり、北東から南西に弓形に連なった島国である。

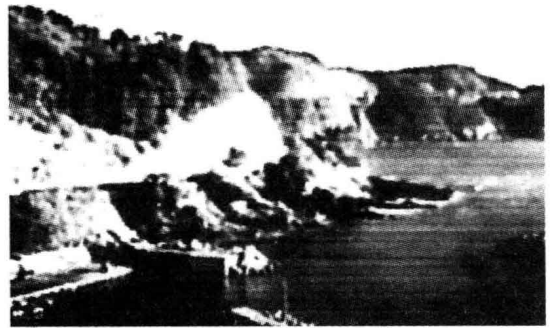
日本は西には日本海および東海（東シナ海）を隔てて朝鮮半島や中国があり、東には太平洋を隔ててアメリカ大陸がある。日本の北にはオホーツク海とロシアがあり、南にはフィリピン、インドネシアや中国台湾がある。日本には陸続きの外国はなく、どの国も海によって隔てられている。日本は東経122度から154度、北緯20度から46度の間に位置している。

日本の面積はおよそ37万平方キロメートルある。これは中国の約26分の1、アメリカの約25分の1、ロシアの約45分の1、イギリスの約1.5倍にあたる。

日本は北海道、本州、四国、九州の四つの大きな島と、その回りのたくさんの島から成っている。北の端から南の端までの距離は約3000キロメートルあり、亜寒帯から亜熱帯まで極めて広い気候帯にまたがっている。面積は本州が一番大きく、次いで北海道、九州、四国の順となっている。

2 日本の山地

日本は環太平洋造山帯に属し山地が多い。国土の3分の2近くが山地である。しかもその山地は一般に傾斜が急で険しく、海岸近くまでせり出している。このため日本には大きい平野が少ない。日本ではほとんどの山地が火山の活動によって出来たものである。日本列島全体が火山帯の上にあると言ってもよい。細長い日本列島を縦断または横断して通っている火山帯は千島火山帯、那須火山帯、鳥海火山帯、乗鞍火山帯、富士火山帯、霧島火山帯の七つである。



岩手県三陸海岸

こうした火山帯の所々に今でも活動を続けている阿蘇山、三原山、浅間山などのような多くの活火山が見られる。富士山も1083年に噴火の歴史を持っているが、今は

きゅうかざん へんか と ち けい うつく おんせん わ
休火山である。火山帯はその変化に富んだ地形が美しく、また、たくさんの温泉も沸
き出ている、国立公園に指定されている場所が多い。

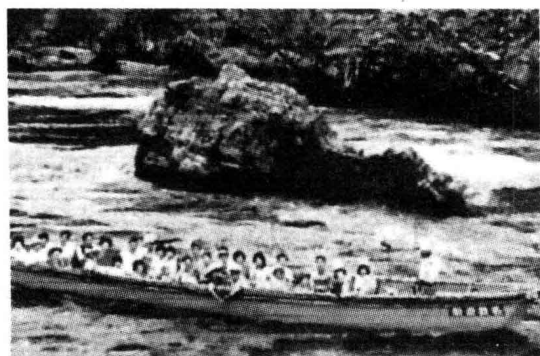
日本の山地はだいたい森林に覆われている。日本人は森林から必要な木材を伐採して
暮らしてきた。森のもたらす恩恵は大変大きかったと言える。また、それほど急斜面で
ない山地は切り開かれて、段々畑 などになっている。日本で一番高い山は富士山
(3776メートル)であるが、そのほか特に本州の中央部には3000メートル級の山が並んでいて
壮観である。これはスイスのアルプス山脈に似ているところから、あるイギリス人によ
って日本アルプスという名前がつけられ、世界にその名が知られるようになった。

3 主な河川と平野

日本の主な河川は天塩川、十勝川、石狩川（以上北海道）、最上川、信濃川、
北上川、利根川、木曽川、天竜川（以上本州）、筑後川（九州）などである。

日本の河川の多くは国土の中央に連なる山脈を境にして、太平洋側と日本海側に流
れている。山地が海岸近くにまで迫っているところが多いので、大部分の河川は短く
て流れが激しい。そのため、雨の降らない日が長く続くと水量が少なくなるが、春先
に雪が溶ける時や梅雨や台風の時などには、すぐに溢れて、しばしば洪水を起こす場合
がある。

こうした災害を防ぐために、今では上流にダムがたくさん造られている。ダムは
土砂の流出を防いだり水の流れを調節するほか、水力発電や飲用水、農業用水、
工業用水の供給に役立っている。



急流を下る犬山ライン（中部地方）

日本で一番長い河川は信濃川であるが、
これでも367キロメートルしかない。世界で最も
長いエジプトのナイル川の18分の1、長江
の15分の1である。

河川が海に流れ込むあたりには、たいて
い土砂が堆積して平野が出来ている。これ
を沖積平野と呼んでいる。また、河川の中
流から下流にかけても平野があるが、その

代表的な大きい平野は、利根川の流域にある関東平野、北海道の石狩平野、信濃川の
流域にある新潟平野、木曽川の流域にある濃尾平野などである。しかし、これらでも世

界的に見るとごく小さい平野にすぎない。

4 気 候

(1) 四季

日本は南北に長い国なので寒い地方から暖かい地方までの幅が広い。また、春、夏、秋、冬の四季の変化がはっきりしている。三月、四月、五月は春、六月、七月、八月は夏、九月、十月、十一月は秋、十二月から二月までは冬である。6月22日ごろは夏至で昼の時間が一番長く、12月22日ごろは冬至で昼の時間が一番短い。3月21日ごろの春分と9月23日ごろの秋分には昼と夜の時間が同じになる。こうした四季の変化が日本人の思想、感情、生活習慣などに与える影響は極めて大きい。特に文学や詩歌の世界では日本の四季を切り離して考えることはできない。また、四季の変化の影響を大きく受けているのは植生である。小さい国土ではあるが植物の種類多さは世界有数である。

(2) 桜 前線

日本の国花・桜は毎年春、暖かくなる頃に咲き、春の到来を知らせる。南北に長い国土を反映して、九州や四国では3月の中旬に、東京では3月の下旬に咲き始める。しかし、北海道では5月の初めになってようやく咲き始める。こうした桜の開花時期を辿ることによって、春の訪れに地域差のあることが分かるのである。富士山では1000メートル上がるごとに桜の開花は3日遅れると言われるが、それを示すように桜前線は山の麓から段々上へと移っていく。薄いピンクの花が下から少しずつ山を染めて上がっていく景色はとても素晴らしい。美しい花が散らないうちに、桜の木の下で酒を酌みながら歌の一つも歌うのが、日本人の春の楽しみ方で、桜の花は日本人にとっては、まさに春を象徴するものである。

(3) 梅雨

梅雨は「ばいう」とも言う。毎年6月の半ばから7月の末にかけて降る雨である。

九州地方から東北地方までは、この時期は特に雨量が多く、雨の降らない日でもじめじめした感じが続く。但し、北海道では梅雨の影響があまり見られない。これは気圧配置の関係上、梅雨前線が北海道から離れているからである。梅雨は水力発電や農家の田植えなどには欠かせない有益なものであるが、時には洪水や山崩れの原因になったり、冷害をもたらしたりする。

(4) 台風

激しい雷雨を最後に梅雨が終ると、いよいよ暑い夏がやってくる。

台風は太平洋で発生した熱帯性低気圧が成長して大きくなったもので、大雨が降り風が激しく吹く。台風は毎年夏から秋にかけて日本を襲う。8月から9月にかけての期間、もっとも多く日本に上陸する。台風の進むコースはだいたい決まっていて、関東地方から西の太平洋側とか、四国、九州に上陸することが多い。台風は稲作などに大きな被害をもたらすほか、建物を壊したり死者を出したりする。1934年に関西地方を襲った室戸台風、1947年に関東地方を襲ったカスリン台風は特に甚大な被害をもたらした。地震と台風は日本における二大自然災害で、これらによってしばしば災害救助法が発動され、政府レベルの救助活動が実施される。因みに台風とは熱帯性低気圧が1000ヘクトパスカル以下で、風速が中心付近で秒速25メートル以上の場合を言う。

日本は大部分が温帯に属するので、気温の差はそれほど大きくない。北海道を除き冬でも気温が零度以下になる日は少ない。夏でも30度以上になる日は長く続かないが多湿である。冬になるとシベリア大陸から厳しい季節風が吹き寄せ、日本海側は大雪が降り、1メートル近くも積もることが多い。逆に太平洋側は晴天が続く。乾燥がひどい。日本の中央部に高い山が連なっているからである。要するに山脈を境にして、太平洋側と日本海側とは気候ががらりと変わるのである。北海道の冬は本州に



伊豆半島から富士山が見える

比べると大変寒く、月平均気温が零度以下になり、中央部で時には零下10度より低くなる日もある。それにひきかえ、夏は湿度が比較的低くて快適である。

北海道とは対照的に、沖縄や小笠原諸島、九州の南などでは平均気温が15度以上で、1年を通じて大変暖かい。これは明らかに太平洋を流れる海流の影響によるものである。

5 自然災害

日本は自然の災害が多い国だと言われているが、その通りで、地震、台風、火山の噴火、津波、集中豪雨、早魃、冷害などによって多くの被害を蒙ることが多い。そ

なか 中でも、台風や地震による被害は一番大きい。人命が奪われたり、家、道路、建物などの損壊が起こる。1923年の関東大震災の時、死者の数は14万3000人にも及んだ。また1995年に神戸地方を襲った関西大震災は6000人以上の死者を出したが、これは今でも大都市被災者の住宅問題 という課題を残している。

かんぱつ みずぶ そく 早魃は水不足によって、れいさ 日照不足 によって、それぞれ農作物の収穫 に深刻な影響を与えている。今のところ、自然災害を完全に防ぐ方法はないが、さいきん よ ち ぎじゆつ はつたつ 発達してきたし、また農作分野では災害に強い品種の改良 も盛んに行 われているので、こうした努力は今後被害の軽減に役立つことが期待されている。

6 人 口

1997年10月1日の国勢調査によると、日本の人口は1億 2616万 6019人である。ねんれいべつ 年齢別人口で言えば、0才～14才が15.3%、15才～64才が69.0%、65才以上が15.7%になる。

しゅつせいすう 1996年中の出生数は119万人、し ぼうすう 死亡数91万7000人、し ぜんぜう 自然増27万3000人で、全体的にはかなり少ない。この状態 が続くと2010年での推定年齢別人口比率は0才～14才が14.2%、15才～64才が60.6%、65才以上が25.2%となり、しょうしか こうれいか すす ぐ あ 少子化と高齢化の進み具合がはっきりと分かる。狭い国土では人口の少ない方がいいように思えても、少子化はろうどうりよく げんしょう と、より少子化へ向かう悪循環 の原因になるし、また、高齢化は年金 ねんきん じゆきゆうしや ぞうか 受給者の増加による若年者 の経済負担 増加や社会の活力減退 などを引き起こすのでどちらも問題が多い。

1997年の外国人登録者数は85カ国、141万5136人となっている。これは人口の1パーセントにあたる。くにべつ 国別比率は韓国及び朝鮮民主主義人民共和国46.4%、中国16.6%、ブラジル14.3%、フィリピン6.0%、アメリカ合衆国 3.1%、その他10.0%となっている。

としぶ 都市部への人口集中 はさいきん やや治まり、地方の発展に伴 っ て僅かではあるが過疎 地域へのいわゆるU ターン現象 も現 れ始めている。

人口100万人以上の都市を順 に挙げると、東京都 (23区内)、横浜市、大阪市、名古屋市、札幌市、神戸市、京都市、福岡市、川崎市、広島市、北九州市、仙台市、以上の12都市である。

第二章 政治制度

1 政治制度の基本

1868 年の明治維新で徳川幕府が倒れ、天皇が統治上最高権限を持つ新政府に変わった。この新政府は 1871 年から 1873 年にわたって、さっそく欧米に大きな使節団を派遣し、欧米の近代的な諸制度や社会の実状を詳細に見聞させ、その帰国報告に基づき、国の近代化のための改革に着手した。それ以前、徳川幕府も数回にわたり欧米に使節を派遣したが、これらは開港の延期や通貨交換の条件などを有利にまとめるための交渉が目的で、国の近代化を計ることは直接には関係がなかった。

近代化の第一歩は法律の整備であったが、近代国家にはあらゆる法律の基本になる憲法の制定が必要である、ということから、新政府はその準備に向けて研究を開始した。その際、欧米のどの国の憲法を模範にするかが大きな問題となったが、当時、強力な皇帝の指導下にあったプロシヤ（ドイツ帝国）の憲法が、天皇を中心とする日本の国柄に相応しいという考え方から、その内容が参考とされた。こうして 1889 年に大日本帝国憲法が制定され、日本は憲政国家の仲間入りをしたのである。

法の整備と並行して、また、多くの留学生を外国に派遣したり、外国から学者や文化人、技術者などを多数招聘し、先進文化の摂取に努め、近代産業の発展を中心に国家の近代化を押し進めた。当時、日本の負担で近代化を助けに来た外国人専門家のことを「お雇い外国人」と呼んだ。

日本が掲げた近代化のスローガンは「富国強兵」であったが、要するに、強い軍隊を持つ豊かな国になることが近代化の目標となったのである。近代化の道をひた走りする中で、教育制度と共に国内の政治制度もかなり整備されたけれども、この富国強兵を下支えすることの重要性から、実際にはいろいろな問題が発生した。日本が嘗てアジアにおける忌わしい侵略の歴史に関わった事実も、その遠因を探れば「富国強兵」に行き当たるのである。



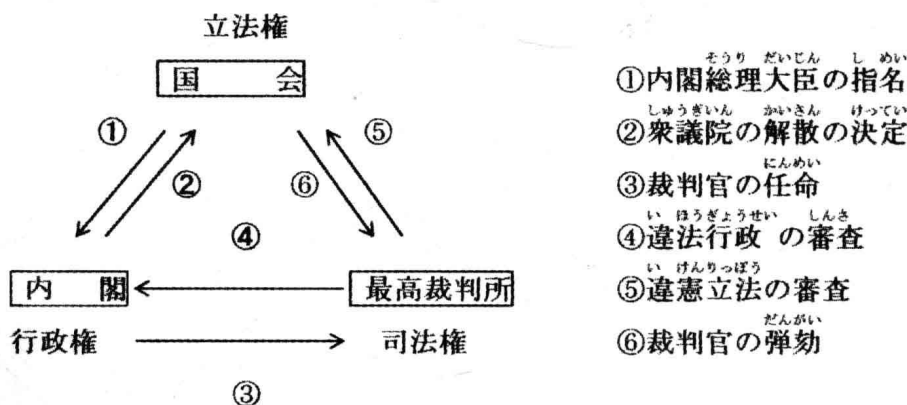
生物学者 E モー

1945 年、第二次世界大戦の敗戦によって日本の政治制度は大きな変革の時を迎えた。この基になったのは、言うまでもなく 1946 年 11 月に制定された新しい憲法、

「日本国憲法」である。制定当時、日本ではこれを新憲法と呼んだ。新憲法が国権の最高機関である国会で議決されるまでのいきさつについては、様々な見方や考え方があるが、とにかく、新憲法は第二次世界大戦に敗れた日本が連合国の占領下、あらゆる分野で民主化を進めて行く中で、敗戦の翌年（1946年）という極めて早い時期に制定されたものである。

その特徴は（1）主権在民（2）平和主義（戦争の放棄）（3）基本的人権の尊重、以上の三つである。

この新憲法が定めている政治の形は、国民の直接投票によって国会議員を選ぶこと、最高裁判所裁判官の国民による審査、住民による地方自治体の首長の選挙、と罷免（リコール）、さらに憲法改正の際の国民投票への参加などで、政治は全て国民の意思に基づいて行われ、立法権（国会）、行政権（内閣）、司法権（裁判所）がお互いに牽制しあって対等の関係にあるという意味で、この新憲法では三権分立の精神が生かされている。この三権分立を図解すると次のようになる。



2 国会

憲法第4条では国会を国権の最高機関と定めている。従って、国会での議決に基づいて、すべての国政が法律に定められたとおり実施されることになる。

国会の構成は次の通りである。

- 1 二院制：衆議院と参議院の両院
- 2 定数：衆議院は500名、参議院は250名
- 3 資格：全国民を代表する選挙された議員

衆議院は満25才以上の男女、参議院は満30才以上の男女

（選挙人の資格は満20才以上の男女）

4 任期 : 衆議院は4年、但し解散の場合は任期前に終了

参議院は6年、3年毎に半数(125名)を改選

二院制の理想は国内各地域の利害を調節しながら、広い視野で法案を審議することである。法案は両院で別々に審議するため、成立までにかなりの時間がかかる。

但し、予算案は両院での審議が違った結果になった場合、両院協議会を開いて協議をするが、それでも意見が一致しなければ、最終的には衆議院の議決が優先する。また、条約の承認も衆議院が優先する。



国会議事堂(東京 千代田区)

両院とも基本的には政党単位で審議するため、定員の過半数以上を占める政党が最も有利である。首相は両院での投票によって指名されるので、最大多数党の党首が首相に選出される可能性が高い。

3 内閣

国会で選ばれた議員が内閣総理大臣(首相)となって内閣を構成するので、このようなやり方を議院内閣制と呼んでいる。内閣は国の行政を担当する最高機関であり、いわゆる政府である。首相は内閣の構成について強い権限を有している。国務大臣は過半数以上が国会議員で、首相が指名し天皇が任命する。また、首相は国務大臣を任意に罷免することができる。

首相は衆議院が内閣の不信任を議決した場合、内閣総辞職か衆議院の解散かのどちらかを選ぶことができる。解散の場合には解散の日から40日以内に衆議院の総選挙が実施される。国会と内閣とはこのような緊張関係のもとに、国民から委託された国政と真剣に取り組まなければならない。

現在、政府を構成する省庁の数は内閣府、法務省、外務省、財務省、文部科学省など計12である。省庁の数は長年の間に増加して20にもなっていたが、省庁が増えることによって起こるさまざまな問題点について盛んに議論が行なわれた結果、21世紀までにこれらを12に削減することが国会で決まり、ついに2001年度から削減案が実施されることになった。特に予算など国の財政に関連して、最も巨大な権限を与えられてきた大蔵省の権限分割が大きな問題となり、その結果、大蔵省に替る財

務省が設置され、また、日本銀行が中央銀行として、今まで以上に独立性を認められるようになった。

現代の政治は国際関係も絡み、複雑で技術的な要素も多くなっているのです、国会議員の勝れた政策立案に加え、国政の実務を担当する優秀な公務員（テクノクラート）による適正な判断と緻密な仕事ぶりが何よりも必要とされる。省庁再編がこのような期待を裏切る結果にならないよう、国民による監視が重要である。

4 裁判所

裁判所は最高裁判所と下級裁判所の二つである。

最高裁判所は長官を含め 15 名の裁判官で構成され、国会と内閣の干渉を受けることなく独自の審理を行うことが出来る。最高裁の最も重要な仕事は、国会で可決された法律が憲法に違反していないかどうか審査することである。また下級裁から上げられた上告審の最終判決を実施する。最高裁の裁判官は任命後 10 年に一度、国民の投票による国民審査を受けなければならない。

下級裁は 8 つの高等裁判所と各都道府県に一つずつ配置された地方裁判所のことで、それぞれ事件の一審と二審を担当する。下級裁は通常の刑事および民事訴訟のほか、国家または地方行政の違法性を審理する権限も与えられている。

裁判官、検察官、弁護士になるには、初めに共通の司法国家試験に合格しなければならない。合格してから将来その三つのどれに進むかは個人の自由である。司法試験は公務員試験（上級）とともに相当な難関で、受験生にとっては極めて高い目標となる。どちらも法を十分に理解し、公正な判断が出来る能力を持つ者のみに開かれた道となっている。

5 地方行政

北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄というのは行政上の区分ではなく、ブロックとして扱われる地理上の名称である。地方行政上では全国を 1 道（北海道）1 都（東京）2 府（大阪、京都）43 県に分け、独立の自治行政単位としている。市町村も一括して、これらを地方公共団体と呼んでいる。

都道府県の首長は知事という。またそれぞれに議会があり、知事と議員は 4 年ごとに住民の直接選挙で選ばれる。地方ごとに利害が違うので、中央政府と意見が異なる

る首長が選ばれる場合も少なくない。地方の財政は住民に頭割りで課せられる住民税と、特定の取引に関わる地方税などを財源とするが、国は自治省を通じ多額の地方交付金（実質的には補助金）を交付し、地方行政との関係を密接に保っている。

市町村も同じ仕組みで首長と議会を有している。但し人口百万人以上の大都市は政令指定都市として認められ、都道府県から独立する形で、国から直接に交付金を受けている。

沖縄県は1971年にアメリカの占領状態が終わり日本に復帰した。

北方四島（歯舞、色丹、択捉、国後）は1854年、ロシアとの和親条約で国境を確定して日本の領土となったが、第二次世界大戦でロシアが占領したままの状態が続いている。この四島を日本に戻して早く平和条約を締結することが両国の重要な懸案事項になっている。

6 政党

日本の政党は多数で、しかも、しばしば離合集散が行われるので、わかりにくい面もあるが、全体の傾向としては保守性が強い。1955年に自由民主党（自民党）が結成されて以来40年間、ずっとこの党が国会の過半数を占めて日本の政治を左右してきた。これを55年体制と呼んでいる。1960年後半からの急速な経済成長の時期、アメリカとの安全保障条約の継続批判やベトナム戦争反対運動などで、都市の労働者や学生に支持された進歩勢力が活発な活動を行ったが、これも保守の壁を破ることはできなかった。旧ソ連の崩壊も一つの契機となって、日本の国会では、いわゆる左翼勢力にも保守派への接近が見られるようになり、また保守派にも内部分裂が起こって、選挙の結果、自民党は過半数以下に転落した。衆議院ではその後、過半数を回復したが、参議院では現在でも過半数を割る状態が続いている。当分の間は最大多数の自民党を中心とした政権を維持するために、政党間の協力関係を模索する状態が続くであろう。